



大塚先生より

今月は、日本小児科医学会ですすめている“スマホに子守をさせないで！”という脱メディアキャンペーンを紹介します。スマホのアプリ画像是便利なものではありませんが、使い過ぎはいけません。

××こんな場面は

ありませんか？××

親も子どももメディア機器接触時間の、コントロールが大事です。親子の会話や体験を共有する時間が奪われてしまいます。



ムズかる赤ちゃんに、子育てアプリの画面で応えることは、赤ちゃんの育ちをゆがめる可能性があります。



親がスマホに夢中で、赤ちゃんの興味・関心を無視しています。赤ちゃんの安全に気が配りができていません。



小児科外来より

小児科外来では、感染予防対策強化もあり、感染症疾患の受診はなかったです。

朝・晩に冷え込む時期となりました。季節の変わり目のため、体調管理に気を付け、インフルエンザの流行も考えられるので、感染防止対策を継続しましょう。

今年の季節性インフルエンザワクチンは、厚生労働省からの通知により、小児科では10/26(月)からの接種となります。



病児保育室はっぴいの利用状況は下記の通りです

(受入れ人数一日3人) 2020/09/01~2020/09/30

	0~1	2~3	4~6	学 童	合 計
能代市	14	11	1	0	26
山本郡	0	0	0	0	0
その他	2	0	0	0	2
合 計	16	11	1	0	28

「子どもの身の回りの危険」

子どもの死亡原因で毎年上位にあるのが「不慮の事故」です。

交通事故や転落などの他、誤飲・誤嚥(ごえん)による事故があります。誤飲とは、物を飲み込み食道や胃に入ってしまうことで、誤嚥とは食べ物や異物が気管や気管支に入ることです。先日もブドウによる誤嚥で亡くなったニュースがありました。

誤嚥時、窒息が疑われたらすぐに異物を除去する必要があります。1歳児以下の

子どもは『背部叩打法(図1)』、一歳児以降の子どもには『腹部突き上げ法(ハイムリック法)(図2)』で対処します。応急処置についての知識を身に付けておくことも必要ですが、誤嚥のないよう日々注意することも大切です。誤飲・誤嚥はほとんどが家庭で起こっています。成長段階に応じ、食べ物は適切な大きさに切る・つぶすなどして食べさせる、食事中に大きな声で呼ぶなどびっくりさせないようにしましょう。また、子どもの目の高さで危険がないかチェックしましょう。子どもが飲み込みそうなおもちゃや文房具など、子どもの手の届くところに危険なものはないか、日頃から整理整頓を心がけましょう。

参考 ONLINE 子どもの救急 <http://www.kodomo-qq.jp/>



(図1)

背部叩打法

- ・ひざの上でうつ伏せにする。
- ・背中の中を数回たたく。



(図2)

腹部突き上げ法

- ・後ろから手を回す。
- ・みぞおちより下で両手でこぶしを握って、上に突き上げる。

病児保育専門士(看護師) 菅原



独立行政法人地域医療機能推進機構(シエイコー)秋田病院

病児保育室はっぴい

〒016-0851 秋田県能代市緑町 5-22 3階ナースステーション隣り

T E L (代表) 0185-52-3271 (予約・問い合わせ) 090-8924-4253

アドレス happy@akita.jcho.go.jp ※メールでの予約対応はいたしません

